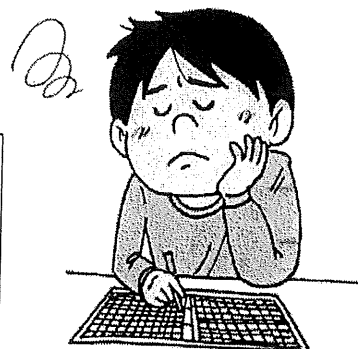


「新しい教科書」はどうなっているのか？ ～ 小学校の教科書採択について考えよう～

講師 **鈴木敏夫 さん**

《プロフィール》 鈴木敏夫さんは東京都立高校の教員として、都高教組の副委員長を務めました。現在は「子どもと教科書全国ネット21」の事務局長として、小中高の教科書の分析に取り組まれています。



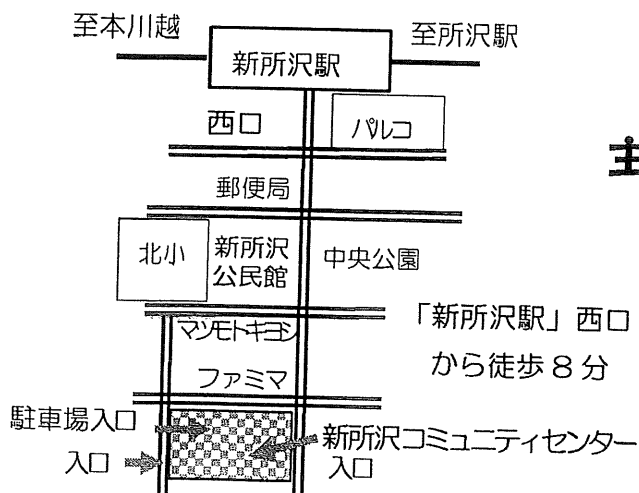
2020年度から、新しい「学習指導要領」にもとづく小学校教科書の使用が始まります。すでに、小・中学校では道徳が「特別の教科」となりました。実施されている道徳は「いじめ問題解決のため」という名の下に全ての教科の上に位置付けられました。道徳の評価については様々な問題があります。人間の内面を客観的に公平に評価できるのでしょうか。今度は、5・6年生の「外国語（英語）」が教科となります。英語は「グローバル化」に対応しての教科化といわれていますが、それに伴う英語の専科教員はほとんど配置されていません。これでは英語塾に通う子が増え、貧富の差による英語の好き嫌いの格差が広がるのではないのでしょうか。社会科では、4年生から自衛隊の記述が登場することになり、5・6年の「領土」については「政府見解」が重視されています。また、プログラミングを扱う教材が新設され、学び方も「主体的・対話的で深い学び」（アクティブラーニング）が強調されています。子どもたちに楽しく学び合い人間的な成長を保障するために、教科書採択における教職員・市民の注視がこれまで以上に重要になります。鈴木さんのお話を聞き、一緒に考えましょう。

※ 6月には、教科書採択のための展示会が開かれます。ぜひ、参加しましょう。

2019年6月15日(土) 午後2時～5時
場所：新所沢コミュニティセンター(予定)

主催 「教科書を考える所沢市民の会」

代表 牧 柁 名



《問い合わせ先》

篠原 042-394-6652